

尾台榕堂 医案④

磨下の小出氏。心痛を患い、反覆転倒して其の苦しみに堪えず。余は調胃承気湯を用い、兼ねて橘皮枳実生薑湯、或いは大建中湯を用う。男をして右に善く侍して傍らより薬を進めしむ。痛みには小間有りと雖も、歇まず。因りて括萋薤白半夏湯を用い、邦俗の所謂濁醪なる者を以て煮て之を服せしむ。病者は痛苦に堪えざるを以て、勉強して数貼を服せば、痛み去りて失うが若し。数日せずして、故に復す。